

一点の嚴肅味

子供は遊ぶ。我等は子供と共に遊ぶ。しかしおとなの遊びに子供を使つてはならない。

子供は自由だ。我等は子供に自由を与えてやりたい。しかし、子供にいかなる生活をさせるかにはおのずから限度がある。みだるべからざる規矩がある。子供は自由だが、子供の相手をするものには、守るべきところがなくてはならぬ。

子供の相手に消極は禁物だ。神経質の苦勞性のあふながりでは、思い切った子供の相手は出来るものではない。全般的態度として、積極と、大胆と、ある長閑のどかさとは、子供を大きく育てる上に極めて必要のことだ。しかし、積極と冒険と粗慢と、長閑と余裕とは、似てしかして違う。子供の相手という大にして微、微にして大なることにおいて、殊に、似てしかしてはなはだしく違う。子供の相手に欠くことの出来ないものは積極、大胆、長閑さと共に、細心と、深慮と、慎重とだ。

子供といっしょに笑いなばらぬ。笑ひながら、おどけながらも、自分みずから戒め慎しみてみだるべからぬ。いらない一点の嚴肅味、そののないものには子供は託せられない。

——倉橋惣三選集第二卷（フレイベル館）より

幼児の教育 第六十九卷 第七号

七月号 © 定価八〇円

昭和四十五年六月二十五日 印刷
昭和四十五年七月 一日 発行

東京都文京区大塚二ノ一ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真
発行所

112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村一ノ一

印刷所 凸版印刷株式会社

101 東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレイベル館

振替口座 東京 一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所フレイベル館にお願いいたします